

## 「妙高市民の心」作文 優秀作品集

最優秀賞

☆中学生の部

### 「つながり」

新井中学校 3年 しもとりのあ  
霜鳥 希空


私の住む妙高市は、人と人との温かい交流がある街だ。ただ私は、小学校の頃と比べて、感染症の影響や部活動の忙しさ等で、だんだんと地域への関心が薄れていると感じていた。


昨年度、私は総務委員として、地域の方と話し合うCS会議に参加した。テーマは、「中学生と地域の結びつきを活性化するためには」というものだった。どのくらいお互いの活動を知っているのか話してみると、日常の活動はもちろん、行事の日時や場所が分からないなど、情報が不足しているせいで、関わりが減ってきていることに気付いた。

私たちは、これを基に、新しい取り組みを始めた。一つ目は「つなぐ」と呼ばれる生徒会報の発行だ。日常のことを書いた日記や、行事の振り返りなどを載せ、中学校のことを知ってもらおうと、二か月に一回のペースで発行した。二つ目は、地域でボランティアを募っている活動への参加だ。中学校でも紹介して募集し、参加している様子も紹介した。

さらに、年末には福祉会から「お年寄りの方に配るカレンダーに添えるメッセージを書いてほしい」との依頼があった。全校生徒に呼びかけ、集まったものを届けると、後日、地域の方からお礼のメッセージがたくさん届いた。「いつも元気なあいさつをありがとう。」など、どれも心温まるものばかりだった。私はこの活動で、中学生と地域との距離がぐっと縮まったように感じた。そして「これからも人と人をつなぐような活動をしたい」という強い思いをもった。

今年度のCS会議では、昨年度の活動により中学校の様子がよく分かったという声が聞かれ、私は嬉しくなった。今年はどんな取り組みができるか楽しみだ。つながりを活性化するためには、自分の思いを発信すること、相手も自分も嬉しくなる活動をすることが大切だと、地域の方との関わりを通して学んだ。私はこれからも、地域とのつながり、人とのつながりを大切にして過ごしていきたい。  
(参考 CSとは、コミュニティ・スクールの略です。)





☆中学生の部

## 「家族だからこそ伝える「ありがとう」の気持ち」

妙高高原中学校 3年 たけうち 竹内 そら 空

「おはよう。今日も早いんだね。部活動行くの？」

週末の朝、いつも通り起きてきた私に、祖父や祖母がそう声をかけてくれます。「うん」と返事をし、朝食をとり始めました。

私は中学校でバレエ部に所属していますが、六月で引退となりました。一年生で入部したときには、自分のバレエに対する知識や経験が浅く、不安や心配など、マイナスの感情ばかりでした。そんな中でも、私の祖父や祖母は、

「部活大変だよね。でも頑張ってるね。」

そうやって声をかけてくれました。何気ない一言でも、不安まみれだった私の心は、いつのまにか軽くなっていました。しかし、いつも私を気にかけてくれる祖父や祖母に、私は「ありがとう」の一言を伝えることができませんでした。今思えば、そこには恥ずかしさや家族だから伝わるだろうという気持ちがあったのだと思います。


数日後、私はいつも通り学校で過ごしていました。終学活の時間になると、担当となっている生徒がお便りを配ってくれます。その友達に対して、私は「ありがとう」と伝えました。そこで思ったのが、なぜ学校では「ありがとう」を伝えているのに、家ではあまり伝えていなかったんだろうということです。

学校での事が心に残っていた私は、祖父や祖母に一度きちんと「ありがとう」を伝えてみようと考えました。

週末の朝、部活に行く準備をして、玄関に向かう私に、祖母は、

「行ってらっしゃい。今日も頑張ってる。」と声をかけてくれました。「うん。ありがとう。行ってきます。」と私が答えると、祖母はいつもより嬉しそうに微笑んでくれました。

この出来事を通して、「ありがとう」という気持ちは、相手に伝えるからこそ意味があるのだと改めて感じることができました。家族だから恥ずかしくて伝えにくいと考えてしまいがちですが、これからは祖父や祖母、そして、父や母に対しても日頃から感謝を伝えていきたいです。そうしていくことで、相手だけでなく、自分自身の喜び、成長にも繋がっていくのだと私は思います。





☆中学生の部

## 「あいさつをすると」

妙高中学校 2年 <sup>きが</sup> <sup>みなみ</sup> 木賀 湊未

あいさつは、自分と相手をつなげてくれます。あまり親しくない人でもあいさつをすると、距離が縮まっていくなと感じます。だから私は、あいさつには自分と相手の仲を深めてくれる力があると考えています。私は、あいさつをすることで仲良くしてくれる人が増えました。

中学校に入学したての頃、自分の席の近くの人と話すことができませんでした。でも、「おはよう」のあいさつを毎日していくうちに、緊張せずに話せるようになりました。あらためて、あいさつはすごいなと実感しました。登下校中に会う地域の人や廊下ですれちがう先生、教室にいる級友にあいさつをします。あいさつをして、返してくれる相手がいると気分が上がります。今はあいさつについて理解していますが、私は昔、あいさつの大切さを知りませんでした。

私は、小学校中学年の頃まで相手のことを見てあいさつができていませんでした。人見知りだった私は、あいさつというと小声でした。そのため、相手には聞こえず、あいさつを返してくれる人が少なかったです。よけいに気分が低下していきました。ある日、父とお散歩に行ったとき、地域の人がありました。父は、道路ごしでも聞こえるくらいの大きな声であいさつをしていました。それを聞き私は、あいさつははずかしがらなくていいんだなと思いました。父にうながされて、「こんにちは」といつも以上にあいさつをしました。地域の方は、笑顔であいさつを返してくれて、心が晴れていきました。それからというもの、少しずつ相手を見て、しっかりとあいさつができるようになりました。

あいさつの大切さが分かり、色々なことが変わりました。地域の人とも仲良くなれた気がします。これからも、あいさつをしていき、たくさんの人と交流関係を築けていけたらいいなと思います。

